



プレミアグループ

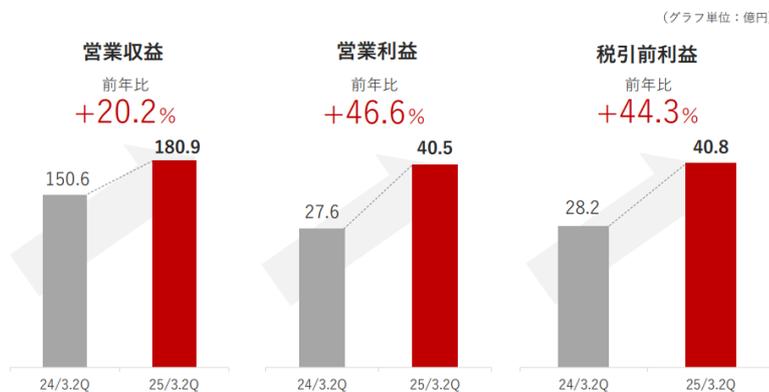
(証券コード: 7199)

カープレミア事業モデルとDXの推進で新たな収益成長期に

GIR View

■ 総括

2025年3月期第2四半期業績は、営業収益が前年同期比20.2%増、営業利益が同46.6%増となった。四半期営業利益で、前年同期の27.6億円から40.5億円へ、大幅に伸長し、初の40億円台を実現した。



Source: 会社資料「2025年3月期第2四半期決算説明資料」

これは、スポット収益（値上げ）による営業利益の伸びは2025年上半年期で一巡するので、第3四半期以降の営業利益の伸びは鈍化して見えることになるかもしれないが、前回レポート(2024/04/24)で触れた通り、同社の収益構造が大きな変容期に入ったと言って良い。主な構造変化の基礎は、限界利益率の高いカープレミアクラブ*1の伸長にある。

また、同第2四半期決算は、2026年3月期を最終年度とした同社の中期経営計画 ONE & ONLY 2026 の目標達成に向けた重要なチェックポイントに当たる折り返し地点。こうした収益構造の変化に加え、キャッシュカウである既存事業であるファイナンス事業や故障保証事業の伸びに一切の陰りが見られないことから、同計画の目標達成確度が相当程度に高いだけでなく、むしろ上振れを期待させるものとなった。

*1 オートモビリティサービス事業の「カープレミアクラブ」の営業収益を指しております。

免責事項につきましては、最終ページをご覧ください。

KEY STATISTICS



主要株価指数

直近株価 (2024/12/25)	¥2,503.00
52 週高値・安値	¥2,668.00/¥1,570.00
発行済株数	40,470,570 株
時価総額	1,094.50 億円
PER	17.69 倍
PSR	3.47 倍
配当 (配当利回り)	¥40.00 (1.6 %)

Sector

セクター	その他金融
------	-------

財務指標 (2025/03 期予想)

営業収益	40,000 百万円
------	------------

Management

President	柴田 洋一
URL	https://www.premium-group.co.jp/



果たして、この上振れ基調が続くか否かを見極めるための投資家にとっての KPI は、カープレミアクラブの伸長とクレジット事業及び故障保証事業の取扱高の伸びと言えるだろう。

また、次期中期経営計画において、さらなる業績拡大を期待できるか否かは、同社が推進する DX 戦略が WEB3.0 や Society5.0 の時代、つまり、来たる人類社会のパラダイムシフトを如何に好機に変えられるか否かにかかっていると見えよう。

一方で株価は、同期決算発表直後に期待の上振れ分だけ反映されたが、短期投資家の売りに押され、将来収益の上振れ期待は全く反映されていないように感じる。同社株式を時価総額約 1,000 億円で買える機会は今しかないかも知れず、押し目は徹底的に拾うことを勧めたい。筆者は、現在の株価は、同社の将来収益（繰延資産）が前同比 18.4 増の 587 億円となったことしか反映していないと判断している。

将来収益（繰延収益）推移



Source: 会社データを基に Global IR, Inc.作成

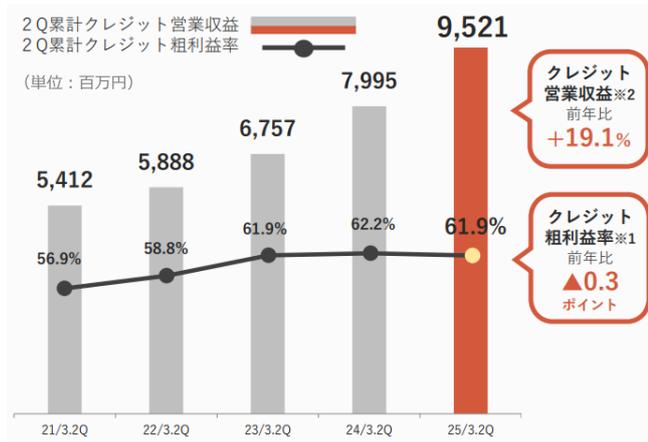
本決算の詳細は、同社の 2025 年 3 月第 2 四半期決算説明資料と同社代表取締役社長による決算説明動画を参照にされたい。また、多忙な機関投資家にはあまり参照されることがないかも知れないが、統合報告書 2024 の出来はセルサイドの証券アナリストが不要なほどの完成度であり、長期投資を検討する機関投資家は必ず参考にされたい。

本レポートでは、同期業績と中期経営計画達成に向けたポイントとなる、収益構造の変容について重きを置きたい。

■ ファイナンス事業と故障保証事業

ファイナンス事業の営業利益は前同比 42.2%増の 3,020 百万円、故障保証事業の営業利益は同 85.2%増の 475 百万円と、何れも大幅に伸ばした。

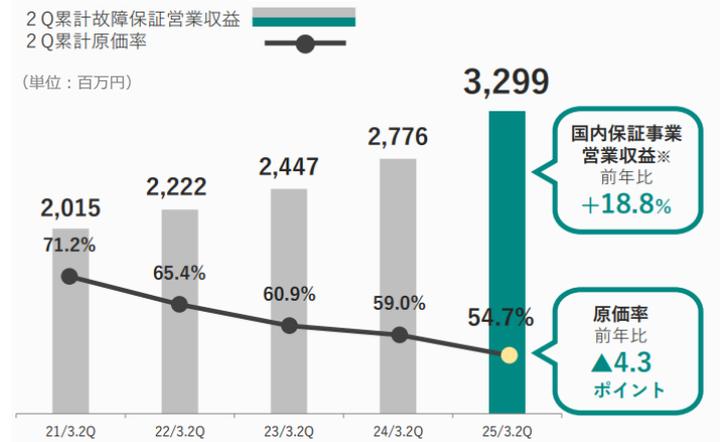
ファイナンス事業



*1 クレジット粗利益率は、クレジットにかかる営業利益を、クレジットにかかる営業収益で除した実績です。なお、当該粗利益率算出時の営業費用は、クレジット獲得のために直接発生した費用（金利、保証料、人件費、地代家賃等）となります。

*2 クレジット営業収益は、クレジットにかかる営業収益を集計しております。

故障保証事業



(※) 国内保証事業営業収益は、海外の実績を除いております。

Source: 会社資料「2025年3月期第2四半期決算説明資料」

国内の新車販売が低迷し、中古車の登録台数も伸び悩む中、ファイナンス事業収益の KPI である同社のクレジット取扱高は第2四半期累計において 15.8%の伸びを見せた。一方で、故障保証事業取扱高は前同比 8.6%と相対的に低い伸び率に留まったが、限界利益率の高い自社商品は同 27.3%増と大幅に伸ばし、営業利益に大きく貢献している。事実、同事業の原価率は前年同期の 59.0%から当期は 54.7%へ大幅な改善を見せている。また、故障保証事業を中心にタイやインドネシア、フィリピンで展開する海外事業が、何れも2桁の売上の伸びとなっている模様であり今後に期待したい。

両事業とも、中期経営計画の目標値を上回る好調振りであるが、どちらも「カープレミアクラブ」の伸びがなければ実現できなかったものである。同社の事業モデルが、従来の B to B to C から大きな投資を決断し、消費者に対して自ら提供する価値である、自社ブランド「カープレミア」を立ち上げることで B to C へ挑戦した経営陣の判断が高く評価される。また何れは、カープレミアクラブ会員との連携を深化させることで、今後はさらなる B to C への進化が期待されるが、これを実現するには DX を中心とした更なる英断が必要となるだろう。しっかりと見守りたい。

当然ながら、余計なコストのかからない自社ブランドの限界利益率は従来の事業のそれよりも高く、それは事業部門内でのプロダクトミックスの改善を意味する。これは、これまでも指摘してきたことだが、中期経営計画 ONE & ONLY2026 の折り返し地点に当たる 2025年3月期第2四半期決算においてこれが見事に露見した。

■ オートモビリティサービス事業

さて、オートモビリティサービス事業であるが、同社の自社ブランド「カープレミア」の色が最も濃い事業である。同事業の2025年3月第2四半期におけるセグメント業績は、営業収益で前同比18.0%増の4,441百万円、営業利益で同49.5%増の582百万円と大幅に伸長した。

	Q2 FY2024/03	Q2 FY2025/03	前年比
(単位:百万円)			
営業収益	3,764	4,441	+18.0%
営業利益	389	582	+49.5%
税引前利益	378	574	+51.8%

Source: 会社資料「2025年3月期第2期四半期決算説明資料」より作成

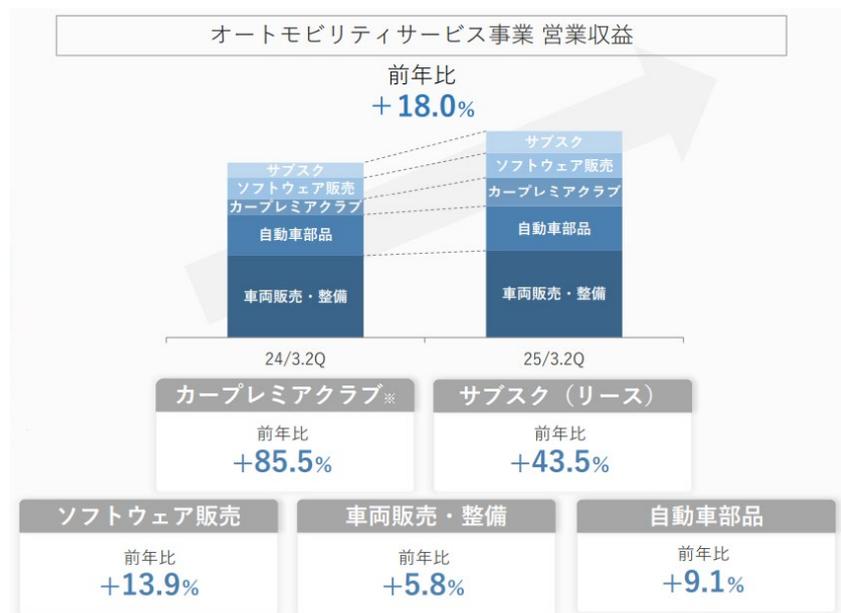
ここまで読み進めて頂けたなら既に気付いている投資家もいるだろうが、前述のファイナンス事業や故障保証事業を牽引しながら業績を伸長させた同事業が有するカープレミア戦略が、同社の未来を左右する期待のKPI そのものである。

同事業のサブセグメント情報は、前年同比伸び率の高い順には以下の通りである。

それは、前年同比伸び率の高い順に、

- ① カープレミアクラブ (前同比 85.5%増)
- ② サブスク (リース) (同 43.5%増)
- ③ ソフトウェア販売 (同 13.9%増)
- ④ 自動車部品 (同 9.1%増)
- ⑤ 車両販売・整備 (同 5.8%増)

となっている。

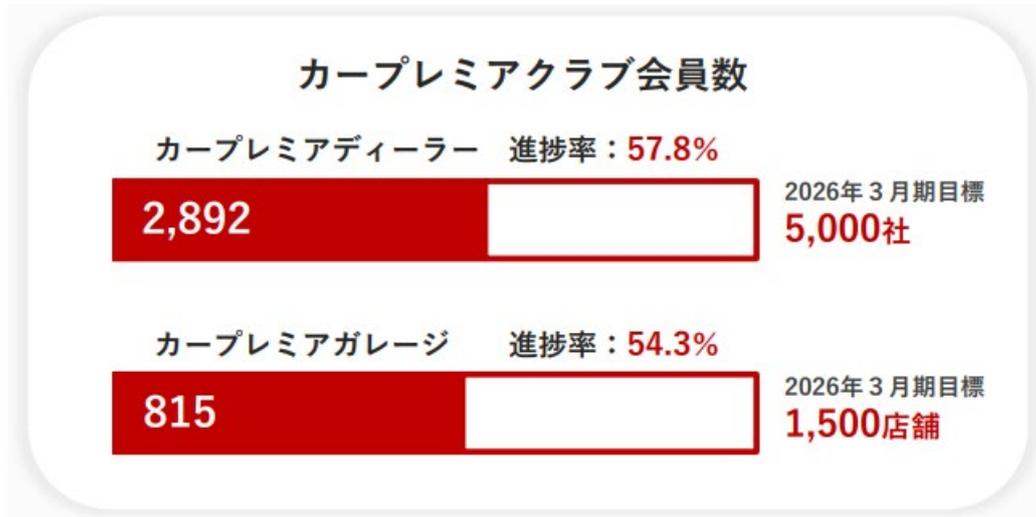


Source: 会社資料「2025年3月期第2期四半期決算説明資料」

ほぼ倍増したカープレミアクラブの伸びは、その値上げも奏功した限界利益率の高い会費の伸びを意味する。同社は、同事業において、数ばかりを追い不正問題による業界の地盤沈下を誘発した大手を尻目に、カープレミアクラブ会員を厳選することで高いクオリティのサービスを消費者に保証する姿勢を前面に打ち出している。中古車マーケットにおいて稀な同社の姿勢は、顧客に明確に支持されており、これがカープレミアディーラー（自動車販売店向け会員組織）数やカープレミアガレージ（整備工場向け会員組織）数の飛躍的な増加に表れている。



中期経営計画 ONE&ONLY2026 における同社の目標加盟店数は、カープレミアディーラーで 5,000 社、カープレミアガレージで 1,500 店舗であるが、同計画の折り返し地点に当たる 2025 年 3 月期第 2 四半期において、前者が前同比 575 社増の 2,892 社、後者が同 293 店舗増の 815 店舗と目標加盟店数達成に向けて好調である。



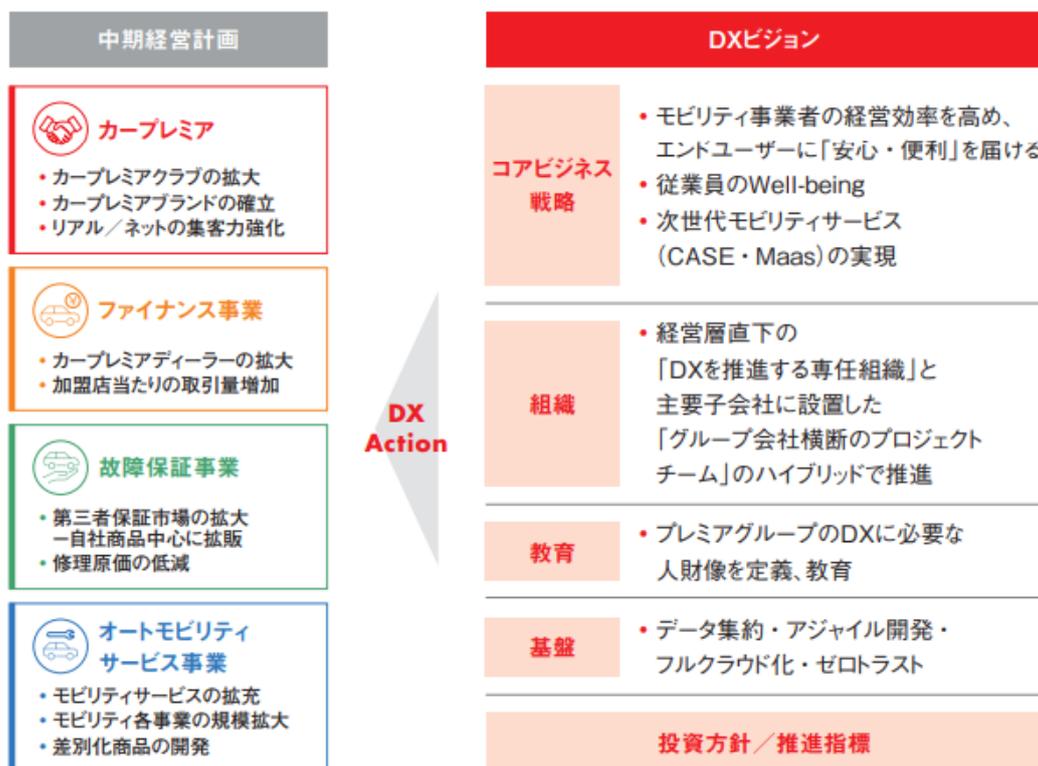
Source: 会社資料「2025年3月期第2期四半期決算説明資料」

また、両業態とも厳格な審査で厳選されたゴールド会員数の増加が顕著であり、この点においても高いクオリティのサービスや商品を消費者に提供したいという姿勢が顕著に表れており、同社の業界の構造問題に対処する戦略的アイデンティティが確立され始めたことが確認できる。この趨勢を定着し、また加速させるためには、カープレミアブランドの「消費者」に対する認知度向上策や科学的かつ包摂的な顧客管理（対象は加盟店と消費者）を可能とする DX 投資を着実に進めており、続けてその一例を紹介したい。

■ DX 投資について

同社の DX 投資の一例として挙げられるのが、フィリピンにおける AND Financing Corporation 社への参画である。同社は、丸紅と共同で出資に参画したもので、もう一つの戦略的出資事例であるモンゴルのフィンテック企業 And global Pte. Ltd 社の親会社が始めた、コンシューマーファイナンス事業を手掛ける。今後人口増大が期待されるフィリピン市場において、デジタル型コンシューマーファイナンス事業、つまりフィンテック事業へ投資したものだ。同社の DX リテラシーを心配する向きもあるかも知れないが、あまり注目こそされていないものの、実は同社は人類社会の WEB3.0 や日本社会の Society5.0 時代へのパラダイムシフトに備えていると言える。何れ、取材を通じて深掘りした上で、レポートしたいと考える。

DXの全体像と中期経営計画



Source: 会社資料「統合報告書 2024」

カープレミア戦略に加えて、同社の DX 投資とその中身こそが、同社への投資を検討する上での重要な KPI と考える。もちろん、持たざるものへの社外投資だけでは十分とは言えず、同社は社内への DX 投資にも余念がない。年内には同社基幹システムの刷新を終え、DX 人財の育成や組織作り、CASE や MaaS といった業界構造のパラダイムシフトへも備える必要があり、次の DX 投資に向かうことは確実と言えよう。同社の今後の DX 投資から目を離してはならない。



経営指標

財務データ(連結：四半期毎)

(百万円)

決算期	FY03/ 2021	FY03/ 2022	FY03/ 2023	FY03/2024						FY03/2025		
	Q1-Q4	Q1-Q4	Q1-Q4	Q1	Q2	H1	Q3	Q4	Q1-Q4	Q1	Q2	H1
営業収益	17,825	20,827	25,456	7,233	7,823	15,056	7,919	8,589	31,564	8,674	9,418	18,092
前年比(%)	127.2	116.8	120.9	127.3	126.8	126.7	121.8	126.2	123.9	119.9	120.4	120.2
税引前利益	3,463	4,017	5,344	1,408	1,416	2,824	1,631	1,786	6,241	1,876	2,200	4,076
前年比(%)	133	116	133	121.7	61.5	81.6	138.5	253.3	116.8	133.2	155.4	144.3
税引前利益率(%)	19.42	19.3	21.2	19.5	18.1	18.8	20.6	20.9	19.8	21.6	23.4	22.5
純利益	2,393	2,964	4,003	1,075	995	2,070	1,142	1,405	4,617	1,276	1,496	2,772
前年比(%)	164.8	123.9	137.1	127.2	55.2	78.3	132.8	281.0	115.3	118.7	150.4	133.9
純利益率(%)	13.4	14.2	15.9	14.9	12.7	13.7	14.4	16.4	14.6	14.7	15.9	15.3

出所：会社有価証券報告書を基に Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入、Global IR, Inc.の計算による。

FY03/2022 Q1 に PL 営業利益区分新設に伴い、「営業収益」及び「営業費用」は一部組替修正した金額（過去分含む）を記載。

FY03/2023 Q2 に、タイの持分法適用関連会社である Eastern Commercial Leasing p.l.c の過年度減損損失の約 8.7 億円の戻入により、税引前利益と純利益が増加。

FY03/2024 Q1 に会計方針の変更に伴い「営業収益」の計上方法を変更。(FY03/2023 以前は変更前の実績を記載)

一株当たりデータ

(連結)

決算期	FY 03/2018	FY 03/2019	FY 03/2020	FY 03/2021	FY 03/2022	FY 03/2023	FY 03/2024
発行済株式総数(千株)	6,060	13,202	13,275	13,334	13,395	40,328	40,471
EPS	214.89	109.66	112.33	186.74	229.39	103.17	119.39
EPS 調整後	198.92	101.73	110.29	184.55	227.36	102.50	118.89
BPS	943.23	414.73	400.17	546.78	732.66	332.45	379.31
DPS	84.98	40.75	43.01	44.10	48.90	20.21	26.57

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入*Global IR, Inc.の計算による

2019年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合、2022年9月1日付で普通株式1株につき3株の割合にて株式分割を実施



キャッシュフロー

(百万円)

決算期	FY 03/2018	FY 03/2019	FY 03/2020	FY 03/2021	FY 03/2022	FY 03/2023	FY 03/2024
減価償却費	339	855	332	1316	1,294	1,419	1,640
営業活動によるキャッシュフロー	1,043	-1,015	-1,246	1,321	1,608	-449	2,489
投資活動によるキャッシュフロー	-852	-706	-1,618	-1,172	-1,028	-2,320	-3,093
財務活動によるキャッシュフロー	1,790	1,563	2,967	1,617	2,797	6,181	6,892

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入*Global IR, Inc.の計算による

財務データ

(%)

決算期	FY 03/2018	FY 03/2019	FY 03/2020	FY 03/2021	FY 03/2022	FY 03/2023	FY 03/2024
総資産利益率(ROA)	3.6%	3.2%	2.5%	3.5%	3.6%	3.9%	3.7%
自己資本利益率(ROE)	22.6%	25.4%	27.3%	32.8%	30.2%	29.9%	30.0%
自己資本比率	15.9%	12.5%	9.1%	10.9%	12.0%	13.1%	12.2%

出所：会社有価証券報告書および会社 IR 資料をもとに Global IR, Inc.作成

Note：百万円以下四捨五入、小数第二位四捨五入*Global IR, Inc.の計算による



免責事項

本レポートは、掲載企業のご依頼により Global IR, Inc.が作成したものです。

本レポートは、情報提供のみを目的としており、当該企業株式への投資勧誘や推奨を意図したものではありません。

本レポートに記載されている情報及び見解は、Global IR, Inc.が信頼できると判断した情報源から得、または公表されたデータに基づいて作成したものです。その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。しかしながら、正確性、客観性を重視した分析を心がけ、最終的な中立性・独立性には最善の注意を払っています。また、当該企業経営者等とのディスカッション、および独自のリサーチに基づき、我々が投資家にとって重要と思われる視点を Global IR, Inc.のオリジナル・オピニオンとして提供しています。Global IR, Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。当該企業株式への最終的投資判断はあくまでも自己の判断・責任でお願いします。